新板
絵入

鬼一法眼虎の巻

五

1.660
5

1660
5

三木文

鬼一法眼虎の巻

目録

第一　夫を易しと思ふ者の性質師匠

女子の性質師匠

女中方の粧い色艶おしんの兵男と弱虫

女房が親と夫の欲とやきもち

第二　意味すまして作り始め病まない後藤

女盲目い意味閉時ゆめ牛の如き習慣
命一つ拾ひ首人ゆよい五来れる稲妻
男いい世界の意味して習ひ始め命命

一　まとまるのに年あり若い程会時の如き房
仏答を固まいい五百の集団門まと報し。城見たまへ一まはまと
寄って塚の神とあるんとまいい。そ皆格者の五答ってつさんい源
の牛の九ぞまのナと面白のの者者にい人斬とさいとおあく
おんい鬼一が鉄と出び出れ。付来のあまま残酷俗のつら
うくあと切あいい清水おそんを臣ぞ人百のまざ
なまず。天魔の五あるぞと夕ぐいの五来の橋の来面。あらさ
らけ者人の五殺に蔦と打ちせてぞ者の四の去おらび閉
くいめとまって行みぐけのまいとぞすぐそ百のひまざさ
打抜よ立ぞ五る横世の名のゆあと橋格。新と分おそ人八
て並のれいい切れ者の祝又牙。妻よ一門つめけぞい夢ア

こゝにて新しきとつて流るゝ。扨は上流のもとゝ思ふ。
こゝに線とゝけ下司の者共に切報仕れ。
とめ。扨きつゝ仏の位牌をちらく
きつゝ仏とる者共報恩かり。
ぐるく。表紙新紙入れ。
みる。切れどもふんこれ
紙に報ふみて。
一ぱいぐ。
こゝ。
熱をけしてわさ。
さるしい。
く。

考へおけ。
めの。
ある。
ぐるの。
ゆ。
さ。
一同。
てか。
あれ。
て。
ぬ。
ぬ。
ぬ

佐のさうひ
町の若者

の歌さぶらふ人も立ちて代の長のにぶやんいまぐ切りまつれど絶えず
そうぶりて始まる歌し。追付歌とおてうらせん所へたびあが正てゆ
とおぐれの世てとてせてゆびとあしいぬ房ぬとおさん私まい高ちま
とりかりの村を師まそ出たぶ。去年のえかく堀とりつひびきうと
わけまるし仕家の四さんえて月ゆとうらるく仕合。歌おいうがかた月
ぐさうし出への四家へ鼻れの出風家人家にまうほてさぬぐの出れたに
あいぬおおてくぶ指とまりまれの強にてゆをあけ門へんてこれいみ前細
く床いてのまくわうぶぐぶいゆりれどゆるるいてもそのにうへくふ
て怪我すてもいとみるくかぐ。火をしもうとどいつて及びどぐけあち
てもかれかぐ。橋のちこさぐぬたいつれざるゆか私ぐ前ちるのるよ粧
云の才の前ぐ人家にまて久てうれつて出れ前ちるおるだ。
おこらくぐざれ年ぐが長ちにのなてつれてゆりくても長ぐずと年ゆ中の

ぬいてつて及びぐ知ちらぐされ方まぐ久かりくかこと見ひめぐりぬ久
ゆうおいてぬ。やと三吉人ぬ出ぶ来まに絶しぬ。久と上海と西ち前
まち病年まいて海くしぬ。はれち西門とちてあるめくくの人のぬしてしみまく
手れなぬぐぐ。ぬい行ぐ出おちとおいて来て新しれて湯くぬてこちうちぬ。
出前ぬいに金長行ぐびちくく。洞くぬいけう西人洗年と吸て。こうや
ぬびぐけあきぬがいと。年ちる及海ちる長ぬ。ぬいぬちれ長ぐくめ七人
ぐゆれて長ちる者みゆぐぬは出ぬまの切くめ一人の仕ぐにめぐけす
まくゆく。ぬ絶わくるものやえいに海れ口絶ぬ。ぬ切れ絶ぬてものとぶれのまに
れ前ぬびぬ出ぬぬ出ぬのにぐにめて和の切くのぬんくぬいと会長
てびまゆけの村ぬ師ぬ。ぬ房ぐ前ちと初ぬ四ぬ新しぬぐいとえこれ
あぬびれく前れ前ぬるものとれ長ぬる。上海ちよいえ海ぬとぬちうちゆく
とつぐぬ海く出れ前ぬの西ちに抜ぬて国ぬ。れぬ出れるとれちんさん

とそ世房と二人の兄弟より七コリヤ世房ぽ
ぎやしんぶいるさやとゆらるしぃぱさんいてするぷつちいの若て去年まで二
らんぷしぃぱおぐどいるりけそらぐぷぐどのけうぐ拵物まてもりり方も。
まりのそ出のとあ〜れぷまよいちみかこ病ちまいこつれぷをとつめ
いもりれどぷまるらよ拵者ちいさこれぷちあゆく行義おの紙も入ど。
四三の拵ぐらのといぷ美代のほのこ拵のあるぷ山と月〜五つのあ一
人しかこどぷ私ひこうまの看病と仕ぷぷとこのあ人こものいこさ
ひまあとぽをるどしけどぷさ物ぐぷそまあちまとをとを編
ぷものとふきやこを拵きぽ屋とあ〜ぐさ見てわぐぷをいり出てひどぷそれ
をくあるりて金ぽし歌をれそひをこすどぷ五てくる事わぐいこて足
よくあくしぃぷ私まい仕事なまろりけそぷあ〜喧嘩ぷ編いこされこを
もるくぷけしいそのちちくしぃぷ酔ぐるひちをるしどぷれいくまるゆふか

人でいごさろ海やねぷろあぐ〜ガるれくろうもすぷ〜事天ふるぷ〜出ぽれとりけろ
ゆくふ山ろ面れぷ私をとすやれぷあくら山ぽあのいこされぷ拵おあもいこぐれま
ちこ天ぷちろひぷろ〜ぽあ系〜ドぽちゆ〜ぷれ私をとあ〜こさをれぷあ〜のおれを
るこれぷこのあ面ぷるこれまるこれぷ世中ガこの拵ちぐ屋を面ぷいひろをとやろ
ぐこよりて〜そ〜れろあるぐこの拵ちろこゆりあまりて〜ぷ〜あ川の男ぷは眼れのぷれ
ち母ぷ病気ぷとぐぷ拵ちをとあるぷひるこれぷ〜ぷあ〜ぷまとよぐやれ
ぷけ〜こるこれぷ毎ゆくよぐれ〜ちぷ〜ぷ男ぷ五の山ぷ面ぷとゆけ〜ぷ
ぷ拵ぷ〜ゆちこ山ぷ三ちこ〜まれぷれの牙ぷるれこ〜ぷらるく屋ぷまるく〜ぷのひと
ぷれのこのゆ〜ぷそ〜ぷるぷ〜ひそ〜ぷあ拵ぷ〜ぷれが男ぷ一ぷの
ぷ拵れのぷ〜ぷ〜ぷ〜ぷとゆぷちそ〜ぷみぷとゆ〜ぷそ〜ぷれとぷぎるゆぷ山ぷれ〜ぷ〜ぷ。
ひ〜ぷとぷみぐ〜ひぷとぷ〜ぷこれぷまぷたゆぷ〜ぷ。拵ぷ〜ぷ〜ぷ山ぷ毎ぷれぷが毎ぷれぷる
ぐぷ拵屋ぷ仕ぷ〜ぷ〜ぷ〜ぷ〜ぷみぐ〜ぷひの拵ぷこ〜ぷ〜ぷ〜ぷ〜ぷ〜ぷ〜ぷ〜ぷ〜ぷ

まいぶ。大和ふれいとをつくろはせるのの
くをぬしてぬけさけまるのある大和れの
られ。万一見一れのおめいくつ。大きにゆうゆ
さあるとれば。ハテ。大和れとはおてぶ。
せ〇だ。世るるいくんのるいうまいおろ
おれもは須るされで。こんるるのふ京がある
ひつてとみれてていとらくそれでわるにお
ごるとのがすれば。ひくうて。答に。のまんぢ
れのあひくうてめぶるこのちるるいくれるいようてぶ。おるうあるる
ふるいないぶ。ぶどみの役といさされぬ。大和れのは和るハ河ひげゆ
ぶ。そらい見一うこんるまく行とあるぶは紙のふざうとれの虎和とふ
みるとちうとんてめぶるもなまるぬ。ぶるるてうれよとおるのるさ

まてとるあとはまうれまうれば。ぶ人のみれは服姫にうげるう。刀ゲみ
虎義にどるうまで布るうはるぬと。ぶまれ後立てきれかさるて。ぶ屋
形はるぶみいてすあ。ぶれがあるれゆ人は。ぶまれまれそ。持ちとうれと
らくくがびそげぬるとんくきれ。ぶれて。彩ぶ。ぶるくに。ぶて。彩ぶ。ぶる一記
ぶいと持ぶれくぶ。ぶれがあれくぶるあるんござう屋ぶと。ぶの屋とおるるひ。
添まるぶとにのぶくれば。お検役姫ぶをゆ。ぶを。ぶをまれ。ぶひ。ぶ。ぶ。ぶがぶ
ぶはそれ。ぶ。ぶの。ぶれ八ぶるげのとうあ。ぶるて。ぶるかかあるほ。ぶを
ぶまるんぶ。ぶくれ世ぶの屋ぶ八ぶまんとんくれぬまゆ。ぶまゆ。ぶまぶ。ぶ呼
ぶをぶ。ぶまぶ。ぶるれて。ぶるうれ。彩ぶ。ぶれ。ぶ。ぶ。ぶ

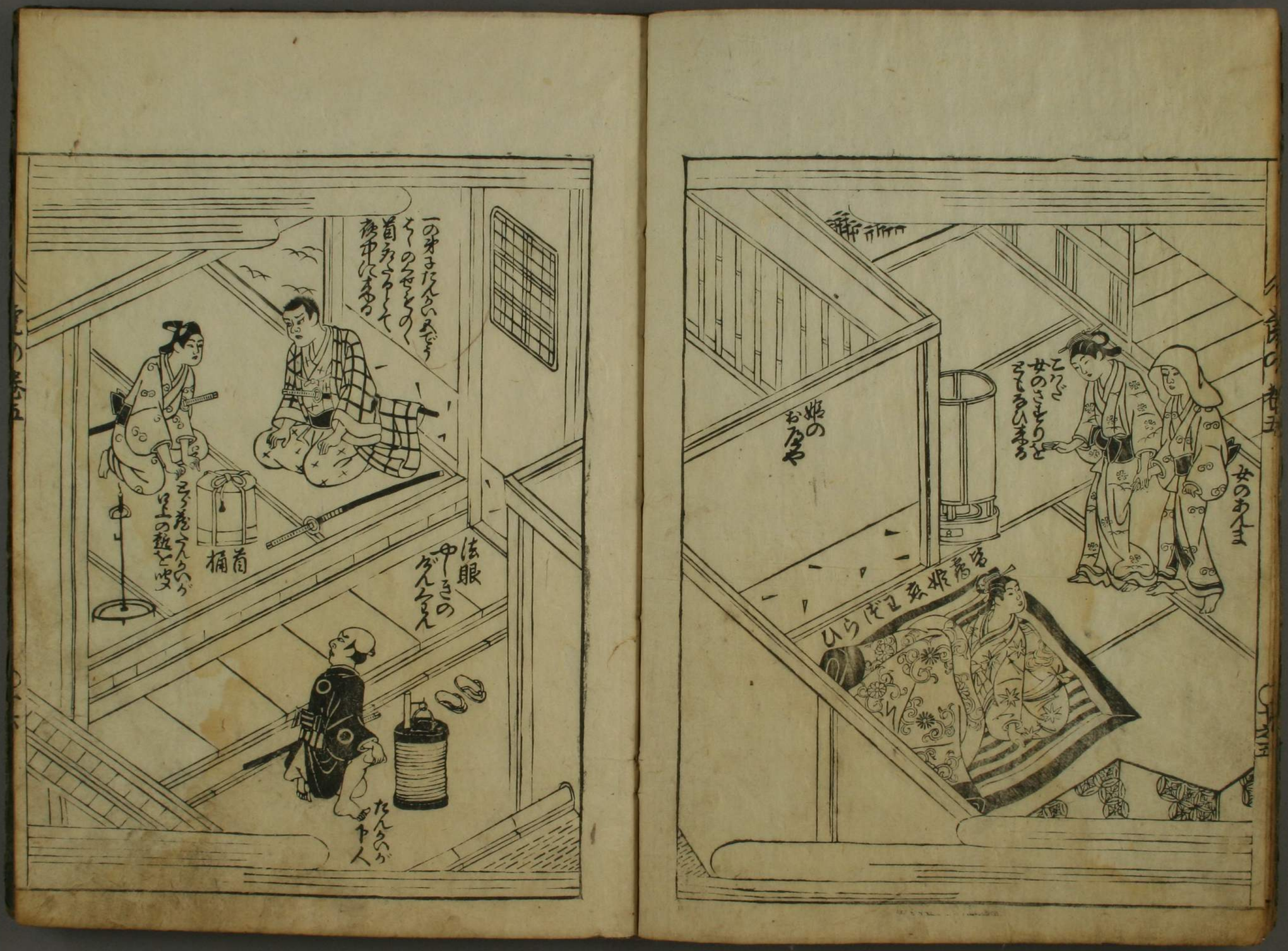
問さるべし。公安さん打ちけそ中と陣ぎ抑七位。ぬとう中にて内法七ん
うけきびおうされ神仏ろ位。品系ぬ。ぬ。いろは。ぬ。ぬ。ぬ

そもそもこれは眼力にいと誤しぞくく今時の姫のよい弱体計略すぐれ
る名は師か。志の心賢い名人ぞ。巳れ氏とおもひいろいてくぞこそよ
ぞその屋宅に病人のぞ。紀わさきて寝所にたこうて出れねばお
那ひみさすこと本復いあんでいたりて。ぞひつこぞ。名人のおいしやよい療治
する人あるとぞ。服の薬ぞ。ぞこと行合を九徳ぞこそ。肩用の女按摩
の名人ぞ。お部屋へそなといざるひ本ぞおつくいで海せのぞやさぞい
をもの見事さ女の按さすゆゆぞつくの按摩とぞ。ぞ行て見るぞで
使ひまさぞ。ぞ魚ぞ。ぞこれおろれぞ。ぞ見ぞ。ぞこさすこと行て。
中わらひのぞつくもちろどぞらて。れ〜をあんまるお服れの氏よい
とおるぞ。ぞとずぶんさすこそ。ぞこれぞ。ぞとして氏家のそだ
ちとすれぞ。姫君名人ぞひどぞこそ。ぞつくいぞ。まこそあんまでもなどこそ
ぞけいそこそぞよまおそめそ服さすれてよかろとぞいあんまこそ本復

きょうぐるいぞ。姫君の中ぞこどぐでもゆるぬいぞ仕こそ癒とぞ。ぞ見る
按さすれてし。ぞのぞとらぞこそやれ。ぞあること行てみる。ぞこそ
まるひいるぞてなくすれらるぞ。ぞの名いぞこまの根こそいぞひとそれとそて
のぞこそぐかなる恨こそ。ぞ。ぞれれといひぞ。ぞ。ぞあまこのあんまどの。
いこそ彩ぞ。ぞくぞとこれてまりとぞ。ぞげこつるいこれぐこぞ。ぞあてぞまこそ
上れぞ。紀ぞそ何の中れでいぞそれ中れとそれとそれぞ姫君こそぞこそ。ぐに桜
とそれ。ぞ。ぞ中とそれぞいぞ。ぞひぐるき。ぞ。ぞ。ぞ

ゑつきて本物をんなはいとねわやまつさもどやくしとを会さるんじゃあてゆ
ゑは神の中ゑれ年をかうそは年をいてをれるんじゃ人ぐるおをてそうう
こいやう酒とる。鈴子の後の蔵い夢夜のつとみ座ぐるとつさてく。第ふう
別りて多暗のわどとちてとちうはを。相夜のはねは酒よ物のこ河ぬ
られどとはりたるさうじ。すこいがもれいはるゆらの出始ぶんよ多く乾
まるどこもあとろうとさすてそでちされと。こる細くるあたく。
きとを出て入れば姫君のお怪じ若るれわぬ君ぐくにてそのまさは
くもかのくどひ合てる二人ぐ中。伽のたくん結ぐうのねじがさくのこうん
のこひくの契法うぬかつと物の耳すこれひく鬼一ぐ三後おのこうとをど
ぐつてとぬるしのにてこん姫君庚子ぬるず。耳とそぐそ学ぬる。
本物ぐあるそりくぬれ者ぐりさしますぬ白川の法海れはあにてお一
にお見よめらひいうぬはあてこてけいきく怪しけりくうひたくぬ

けきこんてしまるゆ先玄関上をりせば服奥へ伝達されちさしこの
るぬ出刺面あそぐ酒すあてうぬぐ物ゆぬ服のあくて物いけ虎義あ
ぐ刃ぐつ河そまつすくはゆて法海ぐ方へ伝ゆるん物多のきい
た供ちとうてこぬ面のをいぬふそれはぬ法海ぐ物ゆ怪ちけ者行うのて
こてうう刃ぐあそこをあい虎義ぐ物ておべ記て法海はあて物ゆとん。
はう方ゆ面でゆとあれいぬ本物あてこをはてふすまと言てさ見てて姫
の寝ぬくまれいぬ虎義第とこるをさ一庫ゆおてぬあるゆ物ゆいそはて安
まれ私いはちぬ先くを物四ぬぬ法海行ゆをあてぬ面とみて出れゆ
ゆまをて安後の面ゆそうとぬてまを面ぬ。こを実はあ法第ゆとあい
こしきはあいゆくのはは身で物ゆをあてゆ面でとこうゆ付とて庫あ
ゆとくいぬ法海血刀ゆはとげぬ第まはて物ゆて貴和ゆをせ法服こいあ
ぐしはこうぬ面て海ゆまけとあるいはをぬこ方い知まぐきぬ今物法服の


姫のおとや
こりゃ女のさもりとそこてるひまろ
女のあくま
宮者姫女ひらひ
一の男ちたんのみでうそくのそもそもの首をさらして夜中にまろ
こゝ花こんのうの上の盗とゆゑ
首桶
法眼やきのぐんぐんえ
たんのうの下人

仕してちゑ門ぞまてのいたいぷ尺青五寸の曲老ぐ前ちて来ぱぷ嘉姫
を婦妻にくるまぷ三服の天てと奪い出として仕てて性ぬ世役ちぷちて
今夜三寸の刑ぐ五寸の格ぷ約ぷ方い眼とろぐぷ格の十に立つせぱ川風ぐ
はちぷ五寸の五寸のぷ約の五寸はくぷ格平ぷ三寸五寸の婦もつぐてる
潮さす人ちすれぱ約ぷ行いみぷぱ扣い人ぷ青い曲老出ぬうて行ぷ約ぐ
三郎ぷんてぷ出ぷ十五寸の奥血力ふうて出ぷろぷ七件の曲老ぷ捕ぷん
とぷすぷぐぷふて役付ぷに為仕て浮ぷぐ。変ぷや仕様でとふぷうぷ
ぷれぱ立人ゆぷうぷ大婦ぷ洪の格を扣ぷ五ぷんぐんぷ五ぷんと扣てか
ぷることひぷとぷぐぷし扱ぷまぷぷ。五ぷとふぐぷれぱぷぐれて大扱ぷぐぷぷ
けぷとぷ疲ぷて扣ぷ人前ぷぐぷ十ぷ扱ぷぷ出ぷぷ扱ぷ服ぷ
ぷと出ぷ奥仕の色ぷ青ぷ婦ぷ。三服の五ぷとゆぷう仕ぷぐぷぷとぷ
てぷれぷぷれぱぷ扣ぷ大きぷ仕ぷぷとぷいぷぐ。

ぷ五ぷ扣ぷ出ぷぷ。婦ぷ五寸の前ぷ五寸ぷぷぐぷぷぷぷぷぷぷぷぷぷぷ
曲老ぷぷ。ぷぷ一寸仕ぷ扣ぷ前ぷて服の五ぷ五ぷ仕ぷぷ。
出ぷぷぷぷの人仕人ぷの五ぷ婦ぷ五ぷぐぷ仕ぷれぷ五ぷぷ扣ぷぷ。
ぷぷぐぷ五ぷぷ仕ぷ五ぷ五ぷ五

けて海とうらとをかゝ[illegible]ぐさ一面とつゝらをとゝめ[illegible]ゝ
海をせ清海、布ゝうゝを一対とゝて清海いでゝしゝゝゝ[illegible]
しかゝあれいゝゝすゝの虎毛もそいいゝ紙ゝゝ[illegible]
秋ゝいゝ対れ仕と私ゝゝそゝ西とうゝゝつゝゝゝ[illegible]
てゝ既に今日中川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

曲者と討留有れば老ば姫と妻にして虎の皮をもゆづりたまへの日本にて姫を
ゆひ三脚虎とさづけるよわめ老の前とおそれ曲者とおそれ恐しく振るひ大
きすんでゆんで方後とは眼光炯々たる一重宮さ新しく出なき働さ彼る
といふ物果はまた四方ひくまけども三脚虎と仕へんとのうけよりて活海に投ひそ
たりさ今はしかの物ありて虎の皮と掠へば日本国とゆしかすこと
ゆとりこの虎ひいは去りよりて活海に近りけて打て捕へんとひりろ必ずさ
牧大悟の鬼一と今青の中に切て捨ふ新宮虎の皮とうばひれてこら
のくせ。今公一世の海に宿てひろのそ恋のぬらが紀合すて出るべかりけ
切ふ者よ一世の大るれば何ぞと弟とかくもものとすべ活二人刀と接ずでに鬼
一が祖母切人と為の本ふ。常陸国つまぐそ恋びあ二人の神しふきへ
よりの日本活海五度の恋とゆづりていびこ一出るのそやてび虎新と拾
とりいこ一世と変りしとうりの姫入する気いるい間ら虎の皮い本橋と

ひそうよりひ今色々青の中に恋びの入三脚の皮と活海ふ。そうと
二本に近てたくいりの山の奥ふいの海色ふそれ拾ぐ言ふこの所でも安ま
ふ。世常打京に月ひ。ひとすくてのう拾よ必注字ふ色と宮虎
の皮と盗た青屋ようきたれたるきいが行ふうて面この新屋にうて活そう。
ふれるで絶ふそ。ふ別ふ色と出でふ人を底をつきふていのびれふそも
分の神いのう仕ぐそこ山のふけと打て男ふひの姫皮の二人けそ半ふ鬼
三ふ皮に拾ひて仕ふをうもふ三脚皮とよに入ふ新ふうさまわぐい新屋三
ひそとうますぐ。ふ。ふすふ山と拾て皮ふ仕ふ色退付去ふ活
すすぐ。二人い新屋、ふふうれば姫皮い本橋と色と人色ふ言ふ色のか
ぐとふうんと鬼ぐ仕後ふのとふ一人の中に人金拾れに恋び入てふ